

研究主題 【小集団指導における自立活動について考える】 ～特別支援教室や自閉症・情緒障害学級で何をすべきか～

I 団体の概要

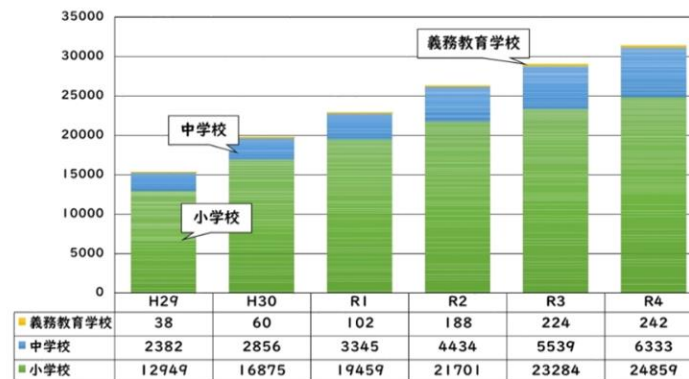
本会（略称：都情研）は東京都の特別支援教育の充実・発展に寄与することを目的とし、情緒障害教育、発達障害教育等に関する専門研修を通して、教職員の専門性向上を目指している。研修会は全都の公立幼・小・中学校教職員、区市町村教育委員会職員等が対象となる。具体的な研修会として、全都を5ブロックに分けて開催する地区ブロック研修(年間7回)と、全都を対象に開催する全体研修(年間4回)を設定している。また、情緒障害等通級指導学級時代から継続的に実態調査を実施し、それらを踏まえた上での実践的な研修となるよう努めている。

II 現状と課題

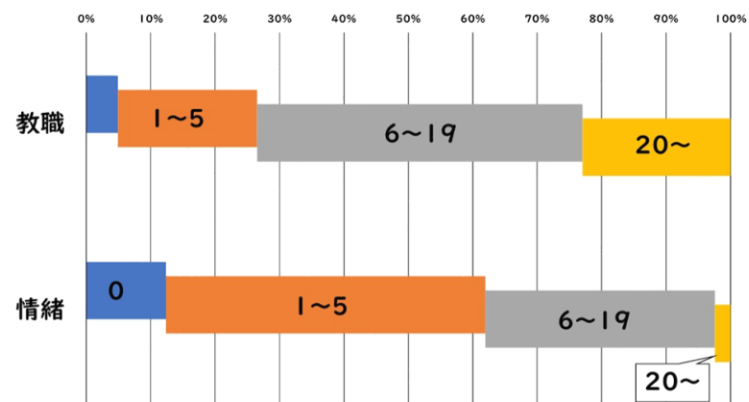
都内小・中学校全校に特別支援教室が設置され、利用者数が年々増加し、小学校約2万4千人、中学校約6千人、計約3万人となり、それに伴う教員数の増加(約3千人)も著しい。情緒障害教育経験年数5年以下の教員が全体の約7割を占め、効果的な指導がおこなわれるためには担当教員の専門性の向上は必須である。また、全都において、自閉症・情緒障害学級が新たに設置される地域も増え、在籍する児童数も増加傾向にある。特別支援教室、自閉症・情緒障害学級のいずれにおいても、自立活動の指導を行うことが定められているが、経験が浅い故に、具体的にどのような指導を行えば良いのかがわからず困っているという声も多く聞かれている実態がある。これらの課題を踏まえ、各研修会の内容を設定し1年間活動を進めた。

★令和5年度 実態調査より抜粋

①特別支援教室利用児童生徒数(人) [R4都教委調査]



③特別支援教室(小)経験年数の割合(教職・情緒障害)



Ⅲ 夏季研究大会・課題研修会【8月3日(木)・8月22日(火)開催】

夏季研究大会では特別支援教室、自閉症・情緒障害学級の担当者が各校での自立活動に関する実践を発表し、その後パネルディスカッションを実施した。会場の参加者からも多くの質問があり活発なやりとりが行われた。課題研修会では、普段研修会に参加しづらい、自閉症・情緒障害学級と中学校特別支援教室分科会を設定し、実践発表及びグループ討議を行った。他地域、他校の実態や、具体的な教材も含めた実践の交流が行われ、ニーズの高さを改めて認識することができた。(以下は青梅市立第二小の発表より抜粋)

自閉症・情緒障害学級って

- ▶通称「情緒固定」
- ▶知的に遅れの無い、自閉症・情緒障害の児童が対象！！
- ▶通常の学級と同様の学年進度の教科書の内容を取り扱う！！
- ▶東京都は積極的に設置を求めているが37区市町村が未設置！

※21年度調査(ここ2年も増加中)
青梅市3校23学級
多摩市4校16学級
町田市6校15学級 など

実際の現場に居て感じる課題①

★多様な児童が在籍。地域によっても異なる。

- ▶「知的に遅れが無い」⇒ IQ70前後～IQ120超えまで
- ▶行動面の課題が大きいタイプ⇔受動的で不安が強いタイプ
- ▶小1から入学する子⇔途中転入の子が混在！
- ▶※2次障害を抱え転入(順学習・不登校等)
- ▶就学相談の判定基準の曖昧さ
- ▶特別支援学級(知的)との境目は？
- ▶特別支援教室との境目は？

実際の現場に居て感じる課題②

～区市によって異なるタイプがあるようです～

- ▶小規模 完全個別タイプ 交流及び共同学習中心
- ▶中規模 複式・個別・交流複合タイプ (設置後2～3年に多い)
- ▶大規模 完全学年編成タイプ 学年ごとに担任がつく

※各区市が意図的に上記のタイプを作っているかどうかは不明
※中学校はまた異なる課題がある。

自閉症・情緒障害学級における自立活動

- ▶特設した「自立活動」の時間
- ▶教育活動全体を通して実施する

常に自立活動の視点を持ちながら生活する

- ▶学習態勢が第一(学べる体と学べる心を作る)
態度・姿勢の保持・注視・傾聴・発語の訓練・待つ・切り替え・相談etc
※低学年のうちに徹底した指導が必要。
- ▶汎化の機会⇒ ①日常の学級内の生活場面
②交流及び共同学習の場面
- ▶特設して取り組んだ自己理解の授業
例「ふっつって何だろう?」かくし芸大会「さくら組PR動画」

なんでさくら組なの?

「できないからさくら組」じゃなくて、
「さくら組だから
できるようになった！！」

Ⅳ 秋季セミナー【11月21日(火)開催】

文科省より加藤宏昭特別支援教育調査官をお招きし「インクルーシブ教育の今後と都情研の役割」と題し、ご講演いただき、その後、本会会長、総務との鼎談を実施した。国レベルでの、中・長期的な視点で見た特別支援教育の在り方と、東京都の施策、そして今、目の前で我々が取り組んでいる子どもたちへの指導との関係を整理する貴重な機会となった。その上で、時代が変化しても、我々が大切にしなければならないこと等を考えさせられる、多くの示唆に富んだ有意義な会となった。

Ⅴ 次年度への課題

今年度も、1年間の研修会への参加者が、のべ5500人を超えている現状があり、課題に対するニーズの大きさと本会への期待、役割を改めて実感している。今後も実践的な研修を取り入れつつ、全都の情緒障害教育のレベルアップに取り組んでいく必要がある。

＜令和5年度連絡先＞

団体名		東京都公立学校情緒障害教育研究会	
代表者	所属	墨田区立業平小学校	
	職 氏名	校長 伊藤 康次	
	連絡先	03-3625-0331	
事務局	所属	立川市立第八小学校	
	職 氏名	指導教諭 上山 雅久	
	連絡先	042-536-0031	
団体ホームページ	URL	https://www.tojyoken.com	
	二次元コード	